

地域力を活用した通学路の安全を確保する取組

(平生町立平生小学校)

〈ねらい〉

学校・家庭・地域が連携して、学校安全3領域の観点から総合的に通学路の安全点検や安全マップづくり等を行う活動をすることにより、地域ぐるみで学校安全活動の充実を図るとともに、子どもたちが「自他の命を守る」という高い安全意識を育むことを目的として実施する。

取 組 内 容

1 **実施期間**：令和3年6月～令和4年2月

2 **実施校**：平生町立平生小学校（校長：中本 隆徳）

3 **推進組織**：教職員、保護者、学校運営協議会、ひらおカンガルー応援隊、ひらお子ども見守り隊、平生幹部交番、平生町青少年育成センター、平生町教育委員会、県教育庁学校安全・体育課、学校安全アドバイザー

4 取組内容

(1) 第1回実践委員会

実践委員が集まり、平生町内での交通事故の状況や児童の登下校の様子、通学路で気になる箇所の情報交換や今後の計画の確認を行った。

【平生町内の交通の現状】

- ・狭い道でスピードを出している車が多いこと
- ・歩道が狭く、舗装の状況が良くない箇所があること
- ・車の停止線が消えている箇所があること
- ・校区内に川が多く、大雨の時、川の氾濫が心配なこと 等

(2) 学校安全セーフティライフセミナー

県教育庁学校安全・体育課学校安全管理班の講師を招き、交通事故の現状や安全教育、危険予測学習（KYT）について研修を行った。大人の目線だけではなく、子ども自身の目線から危険を予測すること、「～してはいけない」と一方的に注意するのではなく、「あなただったらどうする？」と問いかけて考えさせることが、安全教育や児童の危険予測能力を高めるために必要であることを全教職員で共通理解を図った。



危険箇所として挙げられた学校近くの道路

(3) 第2回実践委員会（通学路の合同危険箇所点検）

7月上旬、通学路の危険箇所について、保護者からの情報収集を行った。そこで挙げられたものや過去に危険箇所として挙げられているものについて、実践委員の教員、地域実践委員、保護者、町教委・町役場職員、学校安全アドバイザーと共に、合同危険箇所点検を実施した。学校安全アドバイザーに具体的な対策（環境対策、人的対策）を助言していただきながら、約40箇所を点検した。



保護者からの
情報提供

(4) 全教職員・全校児童による通学路一斉点検（一斉下校時）

5年児童の総合的な学習の時間「平生小の危険予測能力を高めよう～KYT資料をつくろう～」の一環として、全校の一斉下校時に自分の通学路の危険箇所をタブレットで撮影した。その後、「ロイロノート」を使ってKYT資料を作成した。



(5) 5年児童発表

12月の全校朝会にて、5年生の代表児童3名がKYT資料を発表した。保護者から挙げられていた危険箇所だけでなく、児童の目線からでしか気付けなかったところも多くあった。



| 考えられる危険 | 身を守るためにできること |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">車が飛び出して来る自転車が飛び出して来る | <ul style="list-style-type: none">一回止まるまわりをよく見るすばやく通る |

5年児童が作成したKYT資料



全校朝会にて

(6) 安全マップ作成

合同危険箇所点検や児童のKYT資料を基に安全マップを作成し、平生小ホームページに掲載することで、保護者・地域と情報共有を行い、町全体で児童の安全第一を意識し、安心・安全な学校づくりをさらに行っていききたい。

5 成果と今後に向けて

保護者や地域の声を聞くことで、危険箇所について改めて把握することができた。また、児童自身が危険箇所を点検することを通して、より安全に気を付けて通学路を通るよう意識付けができた。今後は、地区児童会等で日頃の様子について振り返らせ、児童の安全意識をさらに高めていきたい。さらに、来年度、班長・副班長が自覚と責任をもって、下学年を安全に引率できるよう促し、「自分の命は自分で守る」という意識を高めていきたい。